

農薬名	特性	作物名	対象雑草名 <処理法>	使用上の注意事項
プリグロックスL ジクワット 7.0% パラコート 5.0%	非ホルモン型の非選択接触性除草剤であり、光合成過程で生じた本剤の過酸化物が細胞を破壊し殺草する。	野菜類※ きゅうり トマト なす ブロッコリー たまねぎ にんにく ねぎ レタス にんじん アスパラガス パセリ いちご キャベツ だいこん かんしょ 未成熟とうもろこし (スイートコーン)	一年生雑草 <雑草茎葉 処理>	1. 野菜類※：ミニトマト、なばな、非結球レタス（リーフレタス含む）、セルリー、オクラ、えだまめを対象とする。 2. 雑草にのみ散布し、作物には薬液がかからないように注意する。 3. 雑草の5～6葉期までに散布すると効果が高い。 4. 畦間処理は、作物にかかると確実に薬害が発生するので、専用の噴口や飛散防止カバーを使用するだけでなく、風や上昇気流にも注意する。 5. 株際が畦間に近い作物は、特に注意する。 6. 散布器具の洗浄液を畦間に流し込まない。 7. 曇天、夕方に散布すると効果が高い。 8. 毒性が強いため、散布及び保管には細心の注意を払う。
サンフーロン液剤 グリホサートイソ プロピルアミン塩 41.0%	非選択性の吸収移行型の除草剤で、茎葉部から吸収され、主として芳香族アミノ酸の生合成阻害によって殺草する。	野菜類※ きゅうり トマト だいこん なす たまねぎ ねぎ えだまめ かんしょ 未成熟とうもろこし (スイートコーン)	一年生雑草 <雑草茎葉 処理>	1. 野菜類※：ミニトマト、いちご、キャベツ、ブロッコリー、なばな、にんにく、非結球レタス（リーフレタス）、セルリー、パセリ、にんじん、オクラを対象とする。 2. 雑草の葉面が軽く均一にぬれる程度に散布する。 3. 付近の作物にかからないようにする。 4. 散布後6時間以内の降雨は効果を減らすので、天候をよく見極めてから散布する。 5. 枯死するまで2週間程度要するので誤って再散布しない。
タッチダウンiQ グリホサート カリウム塩 44.7%	非選択性の吸収移行型の除草剤で、茎葉部から吸収され、主として芳香族アミノ酸の生合成阻害によって殺草する。	野菜類※ きゅうり トマト なす キャベツ レタス えだまめ だいこん たまねぎ にんじん アスパラガス 未成熟とうもろこし (スイートコーン) ねぎ かんしょ	一年生雑草 <雑草茎葉 処理>	1. 野菜類※：ミニトマト、いちご、ブロッコリー、なばな、にんにく、非結球レタス（リーフレタス）、セルリー、パセリ、オクラを対象とする。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 散布後2時間以内の降雨は効果を減らすので、天候をよく見極めてから散布する。 4. 畦間処理は、作物にかかると確実に薬害が発生するので、専用の噴口や飛散防止カバーを使用するだけでなく、風や上昇気流にも注意する。 5. 株際が畦間に近い作物は、特に注意する。 6. 散布器具の洗浄液を畦間に流し込まない。
ラウンドアップ マックスロード グリホサート カリウム塩 48.0%	非選択性の吸収移行型の除草剤で、茎葉部から吸収され、主として芳香族アミノ酸の生合成阻害によって殺草する。	野菜類※ トマト にんにく きゅうり なす キャベツ だいこん なす たまねぎ (秋播栽培) ねぎ アスパラガス	一年生雑草 <雑草茎葉 処理>	1. 野菜類※：ミニトマト、いちご、ブロッコリー、なばな、非結球レタス（リーフレタス）、セルリー、パセリ、オクラを対象とする。 2. 雑草の葉面が軽く均一にぬれる程度に散布する。 3. 付近の作物にかからないようにする。 4. 散布後1時間以内の降雨は効果を減らすので、天候をよく見極めてから散布する。 5. 枯死するまで2週間程度要するので誤って再散布しない。 6. 畦間処理は、作物にかかると確実に薬害が発生するので、専用の噴口や飛散防止カバーを使用するだけでなく、風や上昇気流にも注意する。 7. 株際が畦間に近い作物は、特に注意する。 8. 散布器具の洗浄液を畦間に流し込まない。
		にんじん かんしょ えだまめ 未成熟とうもろこし (スイートコーン)	一年生雑草 <雑草茎葉 処理>	

農薬名	特性	作物名	対象雑草名 <処理法>	使用上の注意事項
パスタ液剤 グルホシネート 18.5%	非ホルモン型吸収移行性の非選択性除草剤であり、体内に移行し、グルタミン合成酵素の作用を阻害し、アンモニアを過剰に蓄積させ光合成を阻害し殺草する。	きゅうり トマト ミニトマト なす いちご キャベツ だいこん ブロッコリー たまねぎ ねぎ なばな にんにく アスパラガス レタス 非結球レタス (リーフレタス含む) セルリー パセリ にんじん オクラ えだまめ かんしょ	一年生雑草 <雑草茎葉処理>	1. 作物には薬剤が絶対にかからないようにする。 2. 散布後6時間以内の降雨は効果を減らすので、天候をよく見極めてから散布する。 3. 畦間処理は、作物にかかると確実に葉害が発生するので、専用の噴口や飛散防止カバーを使用するだけでなく、風や上昇気流にも注意する。 4. 株際が畦間に近い作物は、特に注意する。 5. 散布器具の洗浄液を畦間に流し込まない。
ザクサ液剤 グルホシネートP ナトリウム塩 11.50%	非ホルモン型吸収移行性の非選択性除草剤であり、体内に移行し、グルタミン合成酵素の作用を阻害し、アンモニアを過剰に蓄積させ光合成を阻害し殺草する。	きゅうり トマト ミニトマト なす ねぎ ブロッコリー キャベツ たまねぎ アスパラガス レタス 非結球レタス (リーフレタス含む) にんじん えだまめ かんしょ	一年生雑草 <雑草茎葉処理>	1. 作物には薬剤が絶対にかからないようにする。 2. 散布後1時間以内の降雨は効果を減らすので、天候をよく見極めてから散布する。 3. 畦間処理は、作物にかかると確実に葉害が発生するので、専用の噴口や飛散防止カバーを使用するだけでなく、風や上昇気流にも注意する。 4. 株際が畦間に近い作物は、特に注意する。 5. 散布器具の洗浄液を畦間に流し込まない。
アクテノールB乳剤 アイオキシニル 30.0%	非ホルモン型接触性の除草剤であり、主に光合成及び呼吸を阻害し、殺草する。	たまねぎ (秋播き) にんにく	一年生 広葉雑草 <雑草茎葉処理>	1. イネ科雑草、コシキソウには、効果が劣る。 2. 処理適期はヤエムグラは2～4節期、タネツケバチは2～3葉期である。 3. 子葉展葉期に使用すると、葉先枯れなどの葉害を生ずる恐れがあるので必ず1葉期以降に散布する。 4. 早春期であっても、異常に気温の高い場合には葉に小白斑点などの葉害を生ずる恐れがあるので高温時の使用は避け、夕方散布を行う。
ナブ乳剤 セトキシジム 20.0%	非ホルモン型吸収移行型の選択性除草剤であり、イネ科雑草の茎葉部及び根部から吸収され、生長点に移行し、分裂細胞組織の伸長を抑制し、殺草する。	トマト だいこん キャベツ いちご にんじん にんにく ブロッコリー レタス たまねぎ アスパラガス ねぎ	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラは除く) <雑草茎葉処理>	1. イネ科雑草(スズメノカタビラは除く)優占圃場で使用する。 2. イネ科作物にかからないようにする。 3. 遅効的であり、完全に枯殺するまでに7～10日を要する。 4. 冬期の低温時や出穂期以降など、雑草の生育が停止しているときは効果が劣る。
セレクト乳剤 クレトジム 24%	非ホルモン型移行性の除草剤であり、根部から吸収され蒸散流によって茎葉に移行し、主に光合成阻害または光合成過程で毒素を生成することにより殺草する。	キャベツ たまねぎ にんにく ねぎ にんじん アスパラガス かんしょ えだまめ	一年生イネ科雑草 <雑草茎葉処理> スズメノカタビラ <雑草茎葉処理>	1. イネ科雑草優占圃場で使用する。 2. イネ科作物にかからないようにする。 3. 完全に枯殺するまでに通常1～2週間前後を要する。 4. 展着剤を加用すると効果的である。 5. 激しい降雨が予想される場合は使用を避ける。

農薬名	特性	作物名	対象雑草名 ＜処理法＞	使用上の注意事項
ワンスайдP乳剤 フルアジホップP 17.5%	選択制除草剤であり、一年生イネ科雑草の茎葉部及び根部から吸収され、脂肪酸の生合成を阻害し殺草する。	たまねぎ	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラは除く) ＜雑草茎葉処理＞	1. イネ科雑草優占圃場で使用する。 2. イネ科作物にかからないようにする。 3. イネ科雑草は3～5葉期に処理する。 4. 遅効性であり、完全枯死に至るまで約3週間を要する。 5. 展着剤を加用すると効果的であるが、生育期に使用する場合は散布前後の気象が低温、寡照で経過すると、処理薬にクロロシスを生じる恐れがあるので、天候によっては使用量を所定範囲の少なめの薬量とし、展着剤の加用は避ける。 6. 激しい降雨が予想される場合は使用を避ける。
バサグラン液剤 ベンタゾン 40%	非ホルモン型移行性の選択制除草剤であり、根部及び茎葉部から吸収され主として光合成を阻害し、殺草する。	たまねぎ (秋播き移植栽培)	一年生雑草 (イネ科を除く) ＜雑草茎葉処理＞	1. 高温条件下では、薬害は生じやすいので異常高温下での散布は避ける。 2. イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草の優占圃場では使用を避ける。 3. 苗床のたまねぎには、薬害を生じるおそれがあるので使用しない。
ホーネスト乳剤 テブラロキシジム 10%	選択制除草剤であり、一年生イネ科雑草の茎葉部から吸収され、雑草の生長点に作用し地上部、根部の全身を枯殺する。	たまねぎ にんじん えだまめ	一年生イネ科雑草 ＜雑草茎葉処理＞	1. イネ科雑草優占圃場で使用する。 2. イネ科作物にかからないようにする。 3. イネ科雑草は3～5葉期に処理する。 4. 完全に枯殺するまでに7～10日を要する。 5. 葉面散布肥料との混用または葉面散布肥料散布後の使用は、たまねぎの葉に薬害(癒着)が生じる場合があるので避ける。
センコル水和剤 メトリブジン 50.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤であり、土壌処理では発芽後に根部から、茎葉処理では茎葉部から吸収され光合成を阻害し、殺草する。	アスパラガス	一年生雑草 ＜雑草茎葉散布または土壌全面散布＞	1. 雑草発生前に使用する場合は土壌全面に均一に散布する。 2. 発芽後の雑草には、茎葉も十分ぬれるよう散布する。 3. 土壌が乾燥している時は土壌散布せず、雑草発生後に茎葉散布する。 4. 収穫打ち切り後に使用する場合は、培土崩壊後または中耕後に散布する。 5. 散布後は処理層をくずさないようにする。 6. 有機質含量の少ない土壌や砂壤土では使用しない。 7. 激しい降雨が予想される場合は使用を避ける。 8. ツユクサ、ハコベ、シロザ、イヌタデ、ヒエ、メヒシバなどに効果が高い。
グラメックス水和剤 シアナジン 50.0%	非ホルモン型移行性の除草剤であり、主に根部から吸収されて、光合成を阻害することによって殺草する。雑草の発芽前～生育初期に有効である。	たまねぎ	一年生広葉雑草 ＜土壌処理＞	1. 高温時の散布や、砂土や水はけの良い土壌での使用、雨の多い時期や場所での使用は、薬害を生じるおそれがあるので、使用を避ける。 2. 登録どおりの使用時期(収穫30日前まで)であっても、遅い時期の散布は薬害が生じるおそれがあるため、2月までに使用する。 3. 茎葉部褐変や枯死などの薬害が生じるおそれがあるため、マルチ栽培では使用しない。 4. 雑草発生前～発生始期に有効なので、時期を失しないようにする。 5. 広葉雑草に比べてイネ科雑草にはやや効果が劣る。
クロロIPC IPC 45.8%	非ホルモン型移行性の除草剤であり、出芽直後の幼根から吸収され、細胞分裂の異常や呼吸作用を阻害し、殺草する。	たまねぎ	一年生雑草 ＜土壌処理＞	1. 有機リン剤との混用は避ける。 2. 雑草の2～3葉期までに使用する。 3. 砂地で水はけのよい所では使用しない。 4. 気温が20℃以下の時、効果が高い。 5. 遅効的である。 6. 過乾の場合は効果が顕著でなく、逆に過湿の場合は薬害が生じやすいので、できるだけ雨天を避けて散布する。降雨後、土壌水分が適湿の状態となってから散布する。散布後、激しい降雨が予想される場合使用を避ける。
サターン乳剤 ベンチオカーブ 50.0%	非ホルモン型の接触兼移行性の除草剤であり、雑草の発芽時ないし生育初期の幼芽部に作用し、主としてタンパク合成を阻害し、殺草する。	レタス(春播移植栽培) レタス(トンネル・マルチ栽培) 非結球レタス(春播移植栽培) 非結球レタス(トンネル・マルチ栽培)	一年生雑草 ＜土壌処理＞	1. 春撒移植栽培のうち、露地のトンネルマルチ栽培のみに使用し、他の栽培様式での使用は避ける。 2. 軟弱苗では薬害のおそれがあるので使用を避ける。 3. 土壌が乾いているときは希釈水量を多め(100リットル/10a)にする。 4. タデ、タネツケバナ、ノミノフスマ等の広葉雑草にはやや効果が劣る。

農薬名	特性	作物名	対象雑草名 <処理法>	使用上の注意事項
ラッソー乳剤 アラクロール 43.0%	非ホルモン型移行性の除草剤であり、幼芽・幼根から吸収され、タンパク質の合成を阻害し、発生を抑制する。	キャベツ だいこん いちご(親株床) いちご(子苗床) いちご(本圃) いちご(施設栽培) 未成熟とうもろこし (スイートコーン)	一年生雑草 <土壌処理>	1. 雑草の発芽前に使用する。 2. イネ科雑草に効果が高く、タデ、アカザ等広葉雑草には効果が劣る。 3. 薬量を厳守し、処理後大雨の予想される場合は使用を避ける。 4. いちごに使用する場合、本圃では、なるべく株に薬液がかからないように注意し、株間処理する。
ロックス リニュロン 50.0%	非ホルモン型移行性の除草剤であり、根部から吸収され蒸散流によって茎葉に移行し、主に光合成阻害または光合成過程で毒素を生成することにより殺草する。	セルリー にんじん	一年生雑草 <土壌処理>	1. 茎葉にかからないようにする。 2. 砂土、れき質土壌、心土が露出しているような土壌、及び腐植含量2%以下の土壌では使用しない。 3. 高温時には使用しない。 4. セリ科雑草には効果が劣る。 5. 本剤を処理した畑では4カ月以内は他作物を作付けできない。 6. にんじんには発芽直後から3葉期未満まで使用しない。 7. 激しい降雨が予想される場合は使用を避ける。
ゴーゴーサン乳剤 ペンディメタリン 30.0%	非ホルモン型吸収移行性の除草剤であり、根部または幼芽部から吸収され、生長点の細胞分裂を阻害し、殺草する。	キャベツ レタス 非結球レタス たまねぎ (移植栽培) にんにく ねぎ にんじん アスパラガス	一年生雑草 <土壌処理>	1. 雑草の発生前に散布する。 2. 処理後一部雑草の発生が見られることがあるが、その後生育は停滞し、やがて枯死するので、処理後間もない中耕除草は避ける。 3. イネ科及び広葉の一年生雑草には効果があるがキク科雑草とツククサには効果が劣る。 4. 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、希釈水量を多めにするか、または降雨後に散布する。 5. 有機質の少ない圃場では薬量を少な目にする。 6. 苗床では使用しない。 7. 播種後に使用する場合は、覆土をていねいに行う。 8. キャベツ及びレタスのセル成型苗(プラグ苗)には薬害が発生する恐れがあるので使用を避ける。 9. 激しい降雨が予想される場合は使用を避ける。
ゴーゴーサン細粒剤F ペンディメタリン 2.0%	非ホルモン型吸収移行性の除草剤であり、根部または幼芽部から吸収され、生長点の細胞分裂を阻害し、殺草する。	キャベツ にんじん たまねぎ (秋まき、ただしマルチ栽培を除く) にんにく ねぎ レタス	一年生雑草 <土壌処理>	1. 雑草の発生前に散布する。 2. キク科雑草とツククサには効果は劣る。 3. 土壌が過乾のときは使用を避ける。 4. 播種後に使用する場合は、覆土をていねいに行う。 5. 激しい降雨が予想される時には使用を避ける。また、キャベツは散布後2～3日間は大量の灌水はしない。 6. レタスで使用する場合、極端な浅植えや深植えに定植したセル成型苗(プラグ苗)には薬害を生ずるおそれがあるので注意する。 7. キャベツのセル成型苗には薬害が発生する恐れがあるので使用を避ける。
トレファノサイド乳剤 トリフルラリン 44.5%	非ホルモン型の除草剤で、根部及び幼芽部から吸収され、側根の形成を阻害したり、幼芽部の細胞分裂を阻害し、発生を抑制する。	きゅうり (露地栽培(移植栽培)) レタス (露地栽培) だいこん (露地栽培) たまねぎ (本畑) ねぎ アスパラガス にんじん なばな(移植栽培) ブロッコリー にんにく	一年生雑草 (ただし、ツククサ、カヤツリグサ、アブラナ科、キク科雑草を除く) <土壌処理>	1. できるだけ作物にかからないように散布する。 2. 砂質土壌では少なめの薬量で散布する。 3. 曇った日や夕方に散布する。 4. 処理時に発生している雑草には効果が無いので、雑草の発生する前に均一に散布するか、または中耕除草・培土などにより除草してから散布する。 5. ナズナ、タネツケバナ、イヌガラシ、ツククサ、カヤツリグサ、ノボロギク、タデなどに効果が劣る。 6. は種後に使用する場合は、発芽してからの使用は薬害を生ずる恐れがあるので避ける。 7. きゅうりでは定植7日前に散布(植穴掘前)し、マルチをかけ、定植3日前に定植箇所のマルチに穴を明け、ガスを揮散させてから植付ける。 8. レタスは、整地直後に全面処理し、3日後にマルチをする。5日後にマルチを切開し、2日以上開けてから定植する。 9. レタスは6葉以上で、根に十分土のついた苗を使用する。 10. レタスのトンネルは3日以上たってからかける。 11. だいこんでの、トンネルやマルチ栽培では使用しない。 12. たまねぎ、ねぎでは活着前に使用すると薬害を生じるおそれがあるので注意する。 13. なばなでは、土壌が乾燥している場合は薬害が生じるおそれがあるので使用を避ける。

農薬名	特性	作物名	対象雑草名 <処理法>	使用上の注意事項
トレファノサイド 粒剤2.5 トリフルラリン 2.5%	非ホルモン型の除草剤で、 根部及び幼芽部から吸収され、 側根の形成を阻害したり、 幼芽部の細胞分裂を阻害し、 発生を抑制する。	キャベツ (移植栽培) たまねぎ (本畑) にんにく ねぎ にんじん なばな (移植栽培) ブロッコリー (移植栽培)	一年生雑草 (ただし、ツユクサ、 カヤツリグサ、アブラナ科、 キク科雑草を除く) <土壌処理>	1. 土壌が湿った状態で施用する。 2. できるだけ作物にかからないように散布する。 3. 砂質土壌では少なめの薬量で散布する。 4. 曇った日や、夕方に散布する。 5. 処理時に発生している雑草には効果が無いので、雑草の発生する前に均一に散布するか、または中耕除草・培土などにより除草してから散布する。 6. ナズナ、タネツケバナ、イヌガラシ、ツユクサ、カヤツリグサ、ノボロギク、タデなどに効果がある。 7. は種後に使用する場合には、発芽してからの使用は薬害を生ずる恐れがあるので避ける。 8. たまねぎ、ねぎでは活着前に使用すると薬害を生じるおそれがあるので注意する。 9. なばなでは、土壌が乾燥している場合は薬害が生じるおそれがあるので使用を避ける。
クレマート乳剤 ブタミホス 50.0%	非ホルモン型の除草剤で、 主に幼芽部から吸収され、 細胞分裂を阻害し、幼芽、 根の生育異常・生育停止により、 殺草する。	キャベツ たまねぎ (秋播栽培) にんにく ねぎ にんじん パセリ	一年生雑草 <土壌処理>	1. 雑草発生前に使用する。 2. 多年生雑草並びにキク科雑草の多発生圃場には使用しない。 3. 土壌が乾燥していると効果が劣るので土壌が適度に湿っている時に使用する。また、極度の過湿条件下では薬害の可能性があるため使用を避ける。 4. 作物の生育中に使用する時は、できるだけ作物にかからないように散布する。 5. 周辺の他作物にかからないように散布する。 6. 定植前処理の場合は、薬剤のかかった土壌が作物の根にふれないように定植する。 7. 秋播たまねぎの春季処理は、薬害を生じるので使用しないようにする。
クレマートU粒剤 ブタミホス 3.0%	非ホルモン型の除草剤で、 主に幼芽部から吸収され、 細胞分裂を阻害し、幼芽、 根の生育異常・生育停止により、 殺草する。	キャベツ たまねぎ (春播栽培) たまねぎ (秋播栽培) にんにく	一年生雑草 <土壌処理>	
コンボラル トリフルラリン 1.2% ペンディメタリン 1.2%	非ホルモン型の吸収移行性 除草剤であり、根部及び幼 芽部から吸収され、側根の 形成阻害、幼芽部の細胞分 裂を阻害し、発生を抑制 する。	たまねぎ ねぎ にんじん	一年生雑草 (ただし、 ツユクサ、 キク科雑草 を除く) <土壌処理>	1. 雑草の発生前～発芽前に散布する。 2. 土壌が過乾のときは使用を避ける。 3. 他は、ゴーゴーサン及びトレファノサイドを参照する。
フィールドスターP乳 ジメテナミドP 64.0%	40日以上長期持続効果がある。 イネ科雑草・カヤツリグ サ・スベリヒユ・イヌビユ に優れた効果を発揮する。	たまねぎ	一年生雑草 <土壌処理>	1. 発芽後の雑草に対しては、効果が劣るので必ず雑草発生前に時期を失ないように散布する。 2. アカザ科、タデ科及びアブラナ科など一部広葉雑草には効果が劣るので、これら広葉雑草の混在する所では、広葉雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 散布後の多量の降雨は薬害のおそれがあるので、天候を見きわめてから散布する。 4. 砂質土壌では使用しない。
モーティブ乳剤 ジメテナミドP 19.7% ペンディメタリンP 23.1%	フィールドスターPとゴー ゴーサンとの混合により広 い範囲の雑草に有効。 土壌処理で長期間にわたり 効果が持続する。 土壌処理剤ですが、とうも ろこしのは種後から2葉期 まで散布でき、処理時期に ゆとりがある。	たまねぎ	一年生雑草 <土壌処理>	1. 砂土では使用しない。 2. 雑草の生育が進むと効果が劣るので、必ず時期を失ないように散布する。 3. 散布直後の多量の降雨は薬害のおそれがあるので、天候を見きわめてから散布する。 4. 初期に生育抑制を生じることがあるので散布むらを生じないように均一に散布する。
ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤 ダズメット 96.5%	広範囲の土壌病害やセン チュウに対して防除効果を 示すとともに、雑草の発芽 を阻止する。	きゅうり トマト ミニトマト なす いちご キャベツ ブロッコリー パセリ にんじん だいこん かんしょ ねぎ たまねぎ	一年生雑草 <土壌処理>	1. 使用方法(消毒方法)はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項を参照する。 2. たまねぎ(苗床)は、土壌を耕起整地した後、本剤の所定量を均一に散布して、レーキで浅く(2~3cm)混和し、ビニル等で被覆する。7日後被覆を除去し、その後7日間放置し、播種前にレーキで浅く整地によるガス抜きを行う。